

井の口まちづくり会通信

井の口まちづくり会 設立・平成20年3月23日
 発行・平成29年4月10日・第19号通信
 責任者・小林 孝夫 (井の口まちづくり会会長)
 〒500-8018 岐阜市大仏町8 ☎058-264-2760
 事務局長・名和 利夫 ☎058-263-0097
 通信編集作成・馬場わかよ

設立10周年を迎え記念事業を開催予定

5周年記念「井の口のお宝展」

平成24年8月開催の写真をピックアップ



設立5周年記念「井の口のお宝展」は、残暑厳しい8月25日・26日の開催でした。エリア内に、「井の口の今昔」と題した写真展のなうふ会場、会員出展による「私のお宝展」の河村家会場、「のぼり鯉遺作展」の河合家会場、寺宝公開と特別企画「杉山家所蔵書簡展」を開催した妙照寺会場、長さ5mにも及ぶ大涅槃図を公開していただいた正法寺の大仏殿会場をまちづくり会で企画・開催しました。

名和昆虫博物館や円空美術館では入館料の割引、常在寺・大仏殿も特別拝観料にしていたなどに加え、地域内のお店や企業、一般のお宅の玄関先までも、開催日に「井の口のお宝展」の趣旨に添って“お宝”を展示していただきました。

なかでも、会員出展の河村家では盆石の実演があったり、出展者と来場者との語らいが多く見られ、このまちと住民の皆さまの温かさが感じられる会場となっていました。

「井の口まちづくり会」Vol.2にご協力願います

井の口まちづくり会 会長 小林 孝夫

金華エリアの新しいまちづくり会として産声をあげてから、10年目を迎えます。この10年を振り返れば、本会の初代会長である堀 達夫様をはじめとする先輩諸氏や、陰で支える専門家集団、行政関係者の皆さまのご尽力と、活動へのご支援、ご協力をいただいている住民の皆さまのお陰であり、この節目に際して改めてお礼申し上げます。しかし、まだまだ事業へ参加される住民の実数は多くありません。ご遠方から参加される方も多くおみえですが、言うまでもなく、まちづくりの主人公はその住民です。地域に根差した活動を今後とも大切にしたいと思っています。

節目の今年はその一つと捉えた、記念事業を企画します。内容は多くの方々から評価をいただいた5周年記念事業「井の口のお宝展」を踏襲したいと考えています。メイン企画は、井の口の時代変化の写真対比と古地図の展示。そして、まち並みの探索ツアーです。その他の計画としては前回同様、皆さまの思いが詰まった作品や珍しい品物、懐かしい品物などの展示も行いたく、エリア内の皆さまからの提供をお願いしたいと思っています。また、時間を決めた店先や玄関先の開放もお願いし、その空間での来訪者とのふれあいや作品展示もありたいと思っています。

事業当日は地域住民によって井の口エリアの魅力を存分に表現し、住民一人ひとりによるまちの新たな発見と来街者への見聞の広がりを実現したいと思っています。ぜひ、次世代への歴史文化の継承へと繋がる一日となることを期待しております。10周年記念事業開催に向けて、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成29年度定期総会を開催します

日時 平成29年4月29日(祝・土) 午後1時30分

場所 岐阜市歴史博物館 1階講堂

今年、井の口まちづくり会は、発足から10年を迎えます。まちづくりは地元の皆さまのご支援、ご理解があつての活動と考えます。28年度も当会の年間を通じた各種イベント、講演会、視察研修に地元を含む多数の参加をいただきました。つきましては、会員の皆さまをはじめ多くの方に、当会の活動へのより一層のご理解を深めていただくため、また、会員相互の結束を図るうえでも、定期総会への出席をお願いいたします。当日の受付にて、平成29年度の会費をお願いいたします。入会希望の方もぜひ、ご来場ください。(名和利夫)

10周年記念特別講演

「外から見た岐阜」

地域史研究家、エッセイスト 松尾 一先生

10周年記念となる特別講演の内容は、「外から見た岐阜」がテーマ。近世交通史や地域史を専門に研究されている松尾 一氏が、私たち地元の人に見慣れてしまつて気づかない井の口ならではの事柄や、井の口は岐阜市の中の観光地という視点から、そのおもてなしの話などを語っていただきます。(名和利夫)

松尾 一氏のプロフィール
 昭和22年(1947)5月21日生まれ。
 近世交通史、地域史がライフワークで、岐阜および中部地方の過去、現在、未来を探究している。
 著述、講演・パネラーなど幅広く活動中。
 *「正・続・岐阜は名古屋の植民地?!」(まつお出版)は20週あまり岐阜県の有名書店でベストセラーとなった。

第4回「まちの文化的建造物」顕彰

第4回目となる「まちの文化的建造物」の顕彰式を、平成29年度定期総会の席にて行います。町家の魅力を再認識していただくとともに、建物にお住まいの管理者様へ敬意を表すもので、顕彰する建造物は今年6邸を予定しており、現在選定調査を進めています。平成26年度7邸、27年度6邸、28年度5邸と同じ井の口まちづくり会の顕彰札を贈呈させていただきます。

部会活動をいっしょにしませんか?

井の口まちづくり会では、イベント部会・まちの風景検討部会・まちの歴史探索部会・まちなかアート部会・広報通信作成部会が活動しています。10周年記念事業を迎えるに当たって、新たな人材の掘り起こしを図っています。地域貢献をしたいと考えてみえる方、仲間づくりをしてみたいと思ってみえる方、他薦、自薦を問わずどなたでも総会の受付で私たちに声をかけてください。

まちなかお宝アート発見 まちの銭湯「公園の湯」

市内でも8軒と数少なくなった銭湯の「公園の湯」。今日も開店の4時には外にお客さんが待っています。看板お母さんは御歳91歳、5年ほど前に大腿骨の骨折治療に加え、膝の手術をしてまで店に座り続けています。裏方は娘さんの手伝いがあるものの、お客さんから「ここが辞めたら、行くところが無くなるで」の言葉に励まされ、嫁いで70年間、ずっと現役で銭湯を守ってきました。

昭和10年の開業当初は「弁天湯」、のちに「岐阜浴場」とし、25年前の改装時に現在の「公園の湯」に改名しました。横にはお孫さんが経営する「薬座接骨院」があり、足の悪いおばあちゃんに心強い支えになっています。お湯は温泉と同じ弱アルカリイオンのやさしい水。日替わりで9種類の薬草ハーブ湯を交え、大人420円、小学生150円、幼児は70円です。サウナも完備されていて、ご利用はプラス80円でバスタオル付きです。

近隣の銭湯やスーパー銭湯の廃業もあつて、遠くからも車や自転車でお客様が訪れて来ます。家にお風呂があつて当たり前ですが、大きな湯船に浸かる醍醐味が味わえる銭湯に、たまには出かけてみるのも楽しいですよ。(馬場わかよ)



木曜日定休 営業時間：午後4時～10時

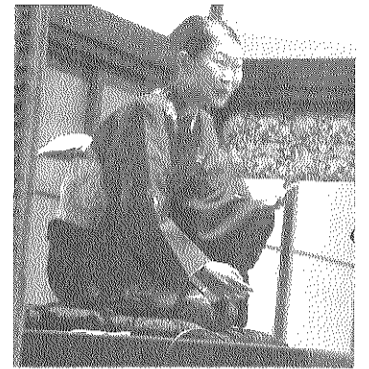
看板はお母さんの笑顔

井の口寄席は大入り盛況!

〔学生まちなか寄席〕

会場：妙照寺本堂

井の口まちづくり会では設立当初より、落語の腕を競う全日本学生落語選手権「策伝大賞」に出演するため、全国から岐阜市にやって来た大学生・大学院生を策伝大賞決定日の夕方に妙照寺本堂の特設高座に招いて、「井の口寄席」を開催してきました。



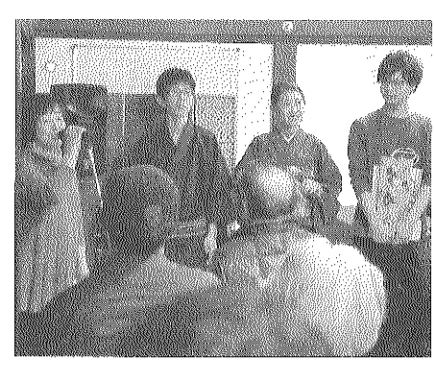
鶏飼家つきみさんの高座

昨年は共催団体の都合で初めて中断しましたが、再開となった2月26日は、5時半の開場前にすでに何人もの方が寒戻りの中を待つてみえ、決勝会場から追っかけの方もいて、当夜の入場者は84名、スタッフを入れれば100名以上の大盛況でした。毎年お見かけするお顔も多く、このイベントへの期待が伺えます。



満員の会場風景

学生落語選手権の高座と違って一人が20分以上の演目を披露し、満席の観客に乘せられ学生さんたちも熱が入ります。きど銭は、中入りに部会メンバーと婦人会有志による具だくさんの豚汁が付いて300円です。このきど銭は全額NPO団体と学生さんに提供しています。高座には4名が中入り前に登場。その最終には、決勝に進出した市長賞を獲得したばかりで駆けつけた東京大学大学院1年の永福亭灰松さんが熱演しました。



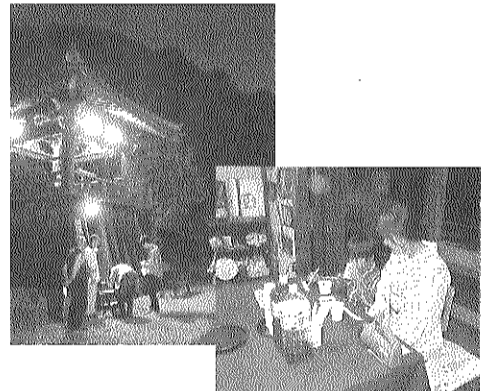
杉山副会長と「井の口笑賞」受賞者(右端)

後半は岐阜大学2年の鶏飼家つきみさんと大学院1年の鶏飼家つきみさんが上がり、つきみさんは決勝で450賞に輝いた逸話をユーモアたっぷりに披露しました。第13回昨年の策伝大賞を受賞した関西学院大学3年四笑亭笑ん太さんの高座には注目が集まり、関西大学4年の千里家ジュニアさんが玄人好みの渋い語りでトリを務めました。全演目が終わり、最後に出演者8名の中からいちばん笑いを取った人を拍手で選出。判定には当まちづくり会の役員3名が当たり、たくさんの拍手があつた四笑亭笑ん太さんが「井の口笑賞」に決まり、伊藤副会長特製の桶が贈呈されました。最後に挨拶に立った杉山副会長が「過去の出演者から芸能人も出たが、この中からプロが誕生することを願っています」と、エールを送りました。(馬場)

平成28年度 井の口まちづくり会 事業報告とイベント内容

- 4月21日 第1回役員会 妙照寺
- 4月29日 定期総会 歴史博物館
総会特別講演は、岐阜市教育委員会社会教育課歴史遺産活用推進係長の高橋方紀氏から「発掘調査と宣教師の記録から見た岐阜城・織田信長公の居館跡」と題し、居館跡の発掘から得た成果などを発表していただきました。
- 5月16日 地区内自治会長会議 正法寺
井の口地区内の多数の自治会長様にお出しいただき、当会の説明に対し貴重なご意見をいただきました。(広報通信作成)
- 5月27日 第2回役員会 妙照寺
- 6月 8日 三重塔見学会
金華山麓に建つ修復整備工事中の登録有形文化財「三重塔」の会員限定学習見学会に34名が参加しました。(まちの風景検討)
- 6月27日 第3回役員会 妙照寺
- 7月 2日 まちなか七夕コンサート
津軽三味線 kotobuki の西尾契代さんを般若寺に招き、懐メロから迫力ある津軽じょんがらまで演奏していただき、七夕の夕べを大勢で楽しみました。(まちなかアート)
- 7月23日 大仏フェスティバル協賛事業
～24日 子供たちを対象にしたゲームを企画・担当し、両日とも60人ほどの子供たちが参加しました。(イベント)
- 7月27日 第4回役員会 妙照寺
- 9月 5日 第5回役員会 妙照寺
- 10月 1日 井の口まちづくり会通信
第18号発行 (広報通信作成)
- 10月 3日 市民参画賞 受賞
- 10月 4日 第6回役員会 妙照寺

10月10日 まちなかお月見アート
～15日 クイズラリー
10日はエリア内のお宅にスキを配付し、まち並みに6日間飾っていただきました。15日は6時から妙照寺の鐘堂で鐘をついてスタート。マップを片手に月明かりの中をクイズに答えながらのまち並み散策をし、ゴールの伊藤家で会員手作りのぜんざいを振る舞いました。(まちなかアート)



10月23日 歴史講話会 妙照寺
「信長をめぐる女性たち」
歴史博物館学芸員の土山公仁氏に今もって定かでない濃姫の生涯、さらに信長と生駒氏の三人の息子や子をもうけた多数の女性たちについて、さまざまな史料を基にお話を伺いました。(まちの歴史探索)



11月6日 日帰りバス視察研修旅行
「宇治市・宇治橋周辺」
隔年開催の視察研修に38名の参加を得て秋晴れの早朝を出発。3グループに分かれてボランティアガイドの案内で宇治市まち歩きコースをめぐり、改修されたばかりの平等院を見学しました。(まちの風景検討)



- 11月15日 第7回役員会 妙照寺
- 12月12日 大仏様への年賀状受付開始
大仏殿と岐阜公園総合案内所、メディアコスモス、あい愛ステーションに投函箱を設置し、年賀郵便とで1月5日まで大仏様宛の年賀状を受付ました。(まちなかアート)
- 12月19日 第8回役員会 妙照寺
- 1月6日～8日 大仏様への年賀状展
今回も岐阜小児童や明照幼稚園年長児の年賀状もたくさんいただき、総数約380枚を画廊・光芳堂にて展示しました。観覧に訪れた差出人には大仏様への拝観券をお渡ししました。(まちなかアート)

この一年間の主な事業を掲載しました。当まちづくり会のいちばんの課題は、地元井の口地区にお住まいの皆さまの参加が少ないことです。まちのにぎわいや活性化、連帯感をつくりたいと知恵を絞り、汗をかいて頑張っています。どなたでも参加していただけるイベントがたくさんあります。ぜひ、お出かけください。



- 1月18日 第9回役員会 妙照寺
- 2月21日 第10回役員会 妙照寺
- 2月26日 井の口寄席 妙照寺
学生まちなか寄席のNPO・ORGANと共同で開催しています。(イベント)
- 3月4日 町家の勉強会 妙照寺
「熊本地震から学ぶ木造住宅の備え」
京都大学大学院・林康裕教授に地震に対する建造物の保全と備えの必要性をお話していただきました。(まちの風景検討)
- 3月14日 各部会合同会議 妙照寺
- 1月～3月 まちの文化的建造物の選定
(まちの風景検討)



宇治の平等院の前で全員で記念撮影

日帰りバス視察研修 宇治市・宇治橋周辺

今回の視察先は、国の文化的景観に選定された都市部では数少ない先輩都市である京都宇治市です。井の口エリアと類似する風景を感じとれました。現地では宇治市歴史まちづくり推進課の杉本氏から文化的景観選定エリアの説明を受け、ガイドによるまち並み散策を実施。宇治茶を基軸にしたまちの生業は今なお活きた商業地でありながらも、住居系も多く、空き家問題も点在していました。井の口に置き換えて学ぶ点も多くあり、有意義な研修旅行となりました。(小林孝夫)

●視察研修の参加者アンケート結果から

- ・開催時期については、84%が満足
- ・研修地の選定については、97%が満足
- ・研修地公民館での事前説明に、97%が満足
- ・ボランティアガイドについては、84%が満足
- ・研修参加費用については、88%が満足
- ・次回の研修旅行には、74%がまた参加する
- ・宇治のまちと井の口の比較コメントは、(お茶に関するところが多く、現代につづく歴史を知ることができた。成り立ちの違う空き家を活用しようとしている動きがよかった。新しいもの由来のものが混在していた。旧家が残っている。新と旧のまち並みが極端。古い道と現代の道が分るのがよかった。石畳が素晴らしい。きれいにしている。よく清掃されている。店が多い。休日のこともあって人が多い。井の口は住宅系、宇治は狭小・変則が味がある。店舗に活用している町家が多かった。見て買物をするところが多い。宇治には平等院という圧倒的なシンボルがある。)